



大洲高校 PTA 月報

令和3年3月号

会員寄稿

さあ、みんなで考えよう！

PTA 監事 岡 孝

私の物心ついた時の家での手伝いの一つは、風呂を沸かすことだった。これを読まれている生徒の皆さんは、「なーんだ、大したことしてないじゃないか。」と思われるだろう。

しかし、当時の私の家は、いわゆる『五右衛門風呂』であった。お風呂掃除をした後水を張り、割った薪を入れ火をつけて沸かすのである。火をつけて風呂が沸くまで、かまどの前を行ったり来たり。途中で火が消えていたらやり直しである。こんな話をするとずいぶん昔の人間と思われそうだが、当時の一般家庭では普通で、こうやってお風呂の準備をしていたのである。

近年、本当に便利になった。スイッチ一つで、お風呂の準備ができる。いや、一言話すだけで、AI（人工知能）が処理してくれる。ふと考えてみたことがある。とても便利になったが、何か忘れていないか？と。それは、「自分自身で考えること」である。過去の作業の中には、薪割り・マッチの擦り方・火が効率よくつく薪の入れ方・短時間で燃え尽きない木の選び方、いろいろなことを考えることができた。最近はどうだろう。知らない言葉が出てくれば、グーグル先生が教えてくれる。行きたいところはナビが連れて行ってくれる。辞書を引くことも地図帳を見ることもない。ほとんど頭を使わずに答えが出てくる。私は便利になったことを否定し、過去に戻りましようと言いたいわけではない。自分自身も便利な時代になったことに助けられている半面、便利になりすぎて、頭を使わなくなってきたことを憂うのである。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の脅威によって、初めて味わう緊張感が日本を席卷している。色んなイベントが軒並み中止され、当たり前前のできない窮屈な毎日を過ごしている。そんな中で、多くの人がテレビ、マスコミが報道することをそのまま受け入れ信じ込んでいる。報道の裏に何かあるのか。世界の中で、今日本はどういう立ち位置にあるのか。あの人の発言はすべて正しいのか。そんなことを自分自身で考えることが重要ではないかと思う。それが正解である必要はない。自分なりに考え、答えを出してみる。それが必要だと思う。

将来、ほとんどすべてのことを機械が人の代わりにできる時代が来るだろう。だが、いくら人間に近づけても最後まで人間にはなれない。自分自身で考えることこそが、人間としての存在価値であることに他ならないと私は思うからである。

高校時代というのは、自分には何ができるのか・何がしたいのか、悩み・迷う時代でもあるだろう。それでいいのだ。

大いに考えて悩んでほしい。（人間なもの♪）

この無駄かもしれないと思える時間と経験こそがきっと、将来を担う大きな力となることを私は信じている。

